

小田原市文化振興ビジョン骨子案

はじめに（市長からのメッセージ）

文化の力で未来を拓く（策定趣旨と文化振興の意義）

小田原を取りまく現状

- 1．恵まれた文化資源
- 2．解決しなければならない課題

これからを見据えた方針、取り組み

- 1．風土の知恵を生かす
 - (1) 小田原を知る
 - (2) 地域資産を生かす
 - (3) まちの記憶を伝える
- 2．市民の熱意を育む
 - (1) 多様な文化事業を行う
 - (2) 市民の文化活動を支援する
 - (3) 活動の環境を整える
 - (4) 文化の担い手を育てる
- 3．まちの魅力をみがく
 - (1) 小田原の景観を守る
 - (2) 小田原の文化をプロデュースする
 - (3) 小田原を発信していく

推進体制、効果測定

- (1) 推進組織の設置

はじめに（市長からのメッセージ）

文化の力で未来を拓く（策定趣旨と文化振興の意義）

- ・ まちづくりの課題は数々あるが、文化の力で解決できることもたくさんある。小田原の再生には、文化の力が必須である。
- ・ 総合計画では将来都市像を「市民の力で未来を拓く希望のまち」として、「文化力を高める」を「未来への投資（先導的施策）」に位置づけている。文化は、小田原の未来に、どのように働きかけるのか。

【総合計画における文化の役割】

将来都市像	まちづくりの目標	文化力を高める ～豊かな文化があれば～
市民の力で未来を拓く希望のまち	いのちを大切にする 小田原	芸術を通じて、いのちの大切さを表現できる
		思いやりの心、多様な価値観を認め合う心が育つ
		お年寄りや障がいのある人も活躍できる
		子どもの感受性、柔軟な発想が培われる
		幸福感を持って暮らすことができる
	希望と活力あふれる 小田原	人の活力や創造の意欲が湧く
		多彩な人材が集まってくる
		古いものを守りつつ、新しい挑戦をする
		魅力的な空間、時間が生まれる
		商品が洗練され、付加価値が高まる
		情報の発信力、編集力が高まる
		産業や観光が振興される
	豊かな生活基盤のある 小田原	職業の選択の幅が広がる
		自然の大切さを知り、守ることに繋がる
		良好な生活環境をつくる
	市民が主役の小田原	快適な環境、美しい都市景観をつくる
人と人が出会い、繋がる機会が増える		
協働の経験を重ねられる		
コミュニティの絆が強くなる		
自己判断、自己決定力が増す		
	自分のまちに誇りを持って暮らせる	

小田原を取りまく現状

1. 恵まれた文化資源

- ・ 恵まれた風土の中で、豊かな文化が生まれ、今なお、生活の中に「なりわい文化」ともいうべきものが根付いている。
- ・ 東京、箱根に近く交通が至便なので、交流人口を増やせる可能性が高い。
- ・ 歴史都市として知名度が高く、奥行きが深い。
- ・ 地域や季節ごとに、市民が主体になって行われる多様な祭りや芸能がある。
- ・ 市民が築き上げた多彩な芸術文化がある。裾野は広く、層が厚い。
- ・ ホール整備により、芸術文化のさらなる発展、発信力の強化が期待される。

小田原の歴史となりわい文化について

2. 解決しなければならない課題

- ・ 小田原の地域特性が生かしきれず、まちが停滞している。【地域特性 / まちづくり】
知り、編集し、発信していくことで、まちの魅力を高める必要がある。
- ・ 身近なコミュニティが衰退し、社会の教育力が落ちている。【人づくり / 子ども / 教育】
地域を支える人材を育て、子どもの感性を伸ばしていく必要がある。
- ・ 市民の文化活動が、十分に広がっていない。【文化活動 / 文化政策】
文化にアクセスしやすい環境を整えて裾野を広げ、活動発展のため支援をする必要がある。

これからを見据えた方針、取り組み

文化振興ビジョンにより小田原の文化を編集、発信して、小田原という都市ブランドを構築し、小田原の経済を振興し、住環境や教育環境、福祉など市民生活を向上していく。文化の力でコミュニティを再生して、市民自治を担う人を育てていく。文化振興を妨げていた要因を除き、市民の力と知恵を集めて推進していく。

1. 風土の知恵を生かす

(1) 小田原を知る

- ・ 郷土を知り、学ぶ機会を拡大する
- ・ 郷土の先人を顕彰する

(2) 地域資産を生かす

- ・ 小田原ならではの事業を行う
- ・ 文化財や伝来の地域資産を活用する

- (3) まちの記憶を伝える
 - ・ 文化財を守る
 - ・ 郷土資料の収集と管理、活用
 - ・ アーカイブ事業

2. 市民の熱意を育む

- (1) 多様な文化事業を行う
 - ・ 質の高い芸術鑑賞
 - ・ 小田原の文化、日本の文化を伝える事業
 - ・ 生活の中に文化が感じられる事業
 - ・ 市民と一緒にを行う事業
 - ・ 活動のきっかけになる事業
 - ・ 子どもが参加する事業
 - ・ 国内外に視野を広げる事業
 - ・ 地域で行う事業
 - ・ 言葉を大切にすること
 - ・ 一つひとつは、小さくても多彩な事業があることが大事
 - ・ お年寄り、障がいのある人も主役になる場所をつくる
- (2) 市民の文化活動を支援する
 - ・ 市民の発想を実現する機会をつくる
 - ・ 運営や創客のためのアドバイスをする
 - ・ スキルアップのための学習機会を設ける
 - ・ 文化に対する意識付けをする
 - ・ 支援のための組織、仕組みをつくる
- (3) 活動の環境を整える
 - ・ 市民ホールを整備する
 - ・ 既存施設を有効活用する
 - ・ 民間施設と連携をとる
- (4) 文化の担い手を育てる
 - ・ 次世代を育てる
 - ・ 観客、鑑賞者を育てる
 - ・ コーディネーターを育てる
 - ・ 文化のネットワークをつくる

3. まちの魅力のみがく

(1) 小田原の景観を守る

- ・ 歩いて楽しいまちをつくる
- ・ 歴史的な景観を守る
- ・ 豊かな自然環境を守る
- ・ 自然の恵みをアートで生かす

(2) 小田原の文化をプロデュースする

- ・ アーティストを応援する
- ・ ものづくりの職人を応援する
- ・ デザイン力を高める
- ・ 小田原ブランドをつくる
- ・ 地元の店を応援する

(3) 小田原を発信していく

- ・ 情報を発信する
- ・ 文化を観光の呼び水にする
- ・ 交流市民を増やす
- ・ 都市間交流を推進する

推進体制、効果測定

(1) 推進組織の設置

- ・ 市民と専門家と行政が協働で考えていく場を設定する。
- ・ 時代のすう勢を考え、戦略を練れる場とする。
- ・ 文化事業を検証し、事業効果を測定していく。